

令和4年度日本小児外科学会
第2回定例理事会議事録

日 時：令和4年9月7日（水）11：00～16：00

会 場：大阪大学東京オフィス+WEB

出席者（大阪大学東京オフィス）：

奥山宏臣（理事長・会長）、小野 滋（副理事長）、大植孝治、田中 潔、
湊本康史、米田光宏（以上理事）、黒田達夫、山高篤行（以上監事）、照井慶太
（庶務委員長）、上原秀一郎（財務会計委員長）、柴田晶子、仁田尾慶太（以上
事務局）

出席者（WEB）：

田尻達郎（理事・次期会長）、石橋広樹、浮山越史、内田広夫（以上理事）、
藤野明浩（庶務副委員長）、浦尾正彦（財務会計副委員長）、神山雅史（庶務委
員）、木下義晶（施設認定委員会委員長）、岡島英明（専門医認定委員会委員長）、
古村 眞（専門制度庶務委員会委員長）、野田卓男（第38回秋季シンポジウム
会長）

欠 席 者：白井規朗（第39回秋季シンポジウム会長）

議事案件

- 1.第2回定例理事会の議事録署名人は、浮山越史理事、湊本康史理事とした。
- 2.令和4年度第1回定例理事会議事録につき、一部文言の修正を加えて、全会一致にて承認された。

3.審議事項

1)第60回学術集会について(奥山会長)

奥山会長より提出された資料に基づき報告され、承認された。

- ・演題募集を2022年10月4日から12月6日に行い、倫理審査を12月20日～1月20日に行い、抄録の採択は2月半ばに行う予定であることが報告され、承認された。
- ・海外からの招待者4名より承諾を得ていることが報告された。
- ・日本小児救急医学会とのジョイントセッションについては、日本小児救急医学会の方で120分の企画を検討することが報告された。
- ・三つのシンポジウムには海外からの招待者にも参加していただくことが報告された。
- ・パネルディスカッションは新たに立ち上げるU45ワーキンググループが中心となることが報告された。
- ・トラベルグラントは10名募集していることが報告された。
- ・トラベルグラントの金額は援助金の範囲内で会長が決定することが確認され、第60回学術集会では一人当たり10万円とすることが承認された。
- ・演題募集規定の「手術手技優秀ビデオ選出の案件について」は米田学術・先進医療検討

委員会担当理事と相談し、「優秀ビデオ応募を希望される場合は演題募集ページの優秀ビデオ選出希望のチェックボックスにチェックを入れてください。」という一文をいれて希望者を募ることが報告され、承認された。

- ・著作権に関しては、①学会に全面委譲、②先生と学会との共同保有、③移譲しない、の3つから選択していただくことが報告され、承認された。
- ・倫理的配慮については第59回学術集会を踏襲することが確認された。
- ・PSIの論文投稿締切日は2023年4月7日（金）にすることが報告された。
- ・JSPS Issue Publication Committeeの事務局長である島秀樹先生から、昨年は10メガを超えるような大きなファイルの投稿が複数あったため、ファイルサイズの上限を決めてほしいとの要望があり、論文全体で15000kb以下、1画像ファイルは4000kb以下、としたことが報告された。
- ・PSIでは動画の投稿は受け付けないことが確認された。
- ・PSIのオープンアクセス費用は投稿者が立て替えて、学会に請求してもらうことが確認された。
- ・第60回学術集会は現地開催を予定しているが、一部オンデマンドの併用を検討していくことが報告された。専門医機構の認定で必要となるセミナーや共通講習等は現地参加であることが必須のため、オンデマンドで参加したのは学術集会だけであることがわかるようにしておく必要があることが確認された。

2)第61回学術集会について（田尻次期会長）

田尻次期会長より、準備状況が報告され、了承された。

- ・2024年5月29日（水）～5月31日（金）に開催することが報告され、承認された。
- ・運営事務局はコングレに依頼することが報告された。
- ・開催形式は現地開催を目指しているが、一部オンデマンドを併用し、オンデマンド参加者も学術集会参加とすることを検討していることが報告された。

3)第38回秋季シンポジウムについて（野田秋季シンポジウム会長）

野田秋季シンポジウム会長より進捗状況が報告され、承認された。

- ・ハイブリッド開催にするため補助金追加申請があり、200万円を追加することが承認された。収支報告の際にPSJMとの切り分けを明確にすることが求められた。
- ・理事会は現地開催とするが、ハイブリッド開催にすることができるよう、準備しておくことが確認された。

4)第39回秋季シンポジウムについて（臼井次期秋季シンポジウム会長）

臼井次期秋季シンポジウム会長欠席のため、提出された資料が確認された。

- ・開催形式は現地開催 + ライブ配信となることが確認された。

5)第 40 回秋季シンポジウムについて(田中次々期秋季シンポジウム会長)

田中次々期秋季シンポジウム会長より、資料に基づき進捗状況が報告され、承認された。

- ・秋季シンポジウムの開催日を 2024 年 10 月 26 日とし、PSJM を 10 月 24-25 日に開催することが承認された。
- ・開催日の決定を受けて、一橋講堂に奥山理事長名で申し込みをすることが報告された。
- ・2024 年の PSJM の会長について情報が求められた。
- ・前回の理事会で三ツ林裕巳先生（衆議院議員 元内閣府副大臣）に講演をお願いしてはうかとの提案があったので、赤文字で追記したことが報告された。
- ・奥山理事長より専門医の新しい枠組みを取り上げることが求められ、田中次々期秋季シンポジウム会長により了承された。

6)各種委員会報告および審議事項

(1)庶務委員会(照井委員長)

- ・照井委員長より、資料に基づき報告された。2022 年 8 月末現在の会員数は、評議員を除く正会員 1,648 名（うち海外 2 名）、準会員 25 名、評議員 307 名、名誉会員 56 名（うち海外 8 名）、特別会員 67 名（うち海外 1 名）、賛助会員 1 団体（2 口）の合計 2,103 名+1 団体である。
- ・女性枠理事選出に伴う役員選挙日程に関する定款施行細則の改定案が承認された。
- ・理事選挙の通知文の確認が依頼され、一部文言の修正を加えて、承認された。
- ・女性理事枠で選出された理事は、再任はできないが、1 期（2 年）あければ通常理事枠で理事に立候補できることが確認された。
- ・通知文は名誉会員・特別会員を含む全会員宛に 9 月中に送信することが報告された。

(2)財務会計委員会(上原委員長)

上原委員長より、今回特に審議事項・報告事項がない旨述べられた。

(3)専門医制度委員会（木下施設認定委員会委員長、岡島専門医認定委員会委員長、古村専門医制度庶務委員会委員長）

木下施設認定委員会委員長、岡島専門医認定委員会委員長、古村専門医制度庶務委員会委員長より資料に基づき、以下の点について報告がされ、承認された。

- ・奥山理事長より、専門医制度委員会の庶務委員会の体制が変更になったことが報告された。新たに設定された庶務委員長補佐に石丸哲也先生、施設認定の庶務副委員長に狩野元宏先生、庶務副委員長補佐に大久保龍二先生、専門医認定の庶務副委員長に岡崎任晴先生、庶務副委員長補佐に望月響子先生が就任することが報告された。
- ・【 サブスペシャルティ領域における日本専門医機構オンラインシステムへの登録等に

【第三報】を HP に掲載することが報告された。

- ・施設認定、年次報告の進捗状況について報告された。
- ・新専門医制度サブスペ領域専門研修プログラム・カリキュラム申請の現状について報告された。
- ・岡島専門医認定委員会委員長より、筆記試験について、今年お申し込みいただいた受験者のうち 2016 年以降に外科学会で医籍登録を行い、2022 年度以降に小児外科研修を開始された方あるいは小児外科研修をまだ開始できていない方については筆記試験の受験を控えるようアナウンスし、キャンセルした方には受験料を返金する。また、受験することはできるが合格しても専門医取得には無効である可能性が極めて高いことをご了解いただきたい旨を通知することを検討していることが報告された。
- ・9 月 3 日の説明会の場で、小児外科学会の認定の早期受験を認めてもらうことは否定されたことが報告された。
- ・2021 年度までの認定試験合格者で小児外科専門医の開始を宣言していない方について、状況を確認の上、専門医機構に交渉することが確認された。
- ・奥山理事長より、岡島専門医認定委員会委員長に、来年以降も学会の専門医認定を継続していくことを前提に、試験時期を他のサブスペとそろえることについて専門医認定委員会で検討をするよう依頼があり、了承された。

(4)機関誌委員会(大植担当理事)

大植担当理事より、以下の点について報告がされ、承認された。

- ・英文の機関誌だけでなく、日本語の機関誌にも動画投稿の希望が増えてきている。動画そのものが審査対象となる論文は現在の査読システムで受け入れることは難しいが、動画なしでも論文が成り立つことを前提に、写真だけでは分かりにくい場合の補助的な意味での動画の投稿の受け入れについて検討している。動画投稿にあたっては、一つの動画につき 2 分以内、動画の個数として 2 点までとし、動画の有無やその内容は、論文の採否の判断材料とはしないこと、動画データは mp4 形式とし、容量制限は 1 ファイル 100 MB までとするが、閲覧の容易性を考慮して 10 MB 以内を推奨する。中西印刷からはこの内容であれば、今のシステムのまま動画投稿可能との回答を得ることが報告され、動画投稿を可能とすることについての基本方針が承認された。
- ・動画投稿のアップロード方法については、中西印刷と相談の上決定する予定であることが報告された。
- ・電子版の論文では動画視聴が可能となり、冊子版では写真と URL が掲載される形になることが報告された。
- ・動画投稿開始当初は追加料金がかからないとしても、今後も追加料金が発生しないのか中西印刷に確認し、理事会で報告することとなった。
- ・営利目的の転載許諾の際の費用徴収について提案され、機関誌委員会の内規に追記する

ことが承認された。

- ・優秀論文の副賞が 10 万円であることを HP に掲載することが提案され、承認された。

(5)国際・広報委員会(淵本担当理事)

淵本担当理事より、資料に基づき、以下の点について報告された。

- ・日本医学会・医学会連合の門田会長から分科会宛に第 31 回日本医学会総会へのパネル展示の参加が求められたことが報告された。
- ・パネルに掲載する内容についての案が求められ、門田会長からの依頼文書を考慮し、小児外科学会が小児の外科的医療を担う専門家を育成していることや医療体制を構築していることなどの社会的な役割、小児外科で治療する病気、専門医のいる病院など、HP に掲載されている一般の方向けの内容を掲載してはどうかと提案された。また、文字だけでなく、画像を効果的に使うことが提案された。
- ・前回の医学会総会へ参加した小児外科学会の会員が少なかったことを受けて、参加者 50 名となることを目指し、HP や秋季シンポジウムなどで第 31 回日本医学会総会への参加を呼び掛けていくこと、役員も関連施設等への声掛けに努めることが確認された。
- ・HP の英文ページ作成のワーキンググループを立ち上げたことが報告された。

(6)保険診療委員会(浮山担当理事)

浮山担当理事より資料に基づき、以下の点について報告がされ、承認された。

- ・令和 6 年度診療報酬改定に提出できる項目は新規 5 件、改定 7 件、材料 3 件であることが報告され、希望があれば 11 月 15 日までに浮山理事に連絡するよう求められた。
- ・日本外科学会保険診療委員会より、供給停止予定品目調査（医薬品、医療材料）の提示があり、メール審議にて当学会としては問題のないことを確認、報告したことが報告された。

(7)教育委員会(内田担当理事)

内田担当理事より、以下の点について報告がされ、承認された。

- ・卒後教育セミナーを令和 5 年 7 月 30 日（日）に完全 web 開催とすること、運営は候補となった企業の中で、運営委託費が最も安く、朝早い時間から基地局を使用できる有限会社セーラーに委託する予定であることが報告され、承認された。
- ・PSJM2 日目（令和 4 年 10 月 28 日（金））に開催される第 13 回小児内視鏡外科手術セミナーについて報告された。
- ・PR ビデオはアニメで作成することとし、現在教育委員会でストーリーを作成中であることが報告された。業務委託候補は現在選定中であることが報告された。
- ・E-learning について、外科学会のシステム見直しが来年 2 月の運用開始を目標に行われているため、外科学会からの連絡を待っている状況であることが報告された。

- ・文部科学省高等教育局医学教育課から求められていた医学教育モデル・コア・カリキュラムに関するパブリックコメントについて、教育委員会委員からの意見をとりまとめ、提出したことが報告された。
- ・小野副理事長より、豚を使った学生勧誘の件について、自治医科大学から許可がおりたので、大学に提出する実施計画書の長に井上委員長になっていただくこと、本件については井上委員長に相談して進めていくことについて確認があり、承認された。

(8)悪性腫瘍委員会(大植担当理事)

大植担当理事より、以下の点について報告された。

- ・最後の 7 年間に登録した予後調査が終わり、各委員に腫瘍毎のデータを振り分けて解析をしてもらう段階にきている。順調にいけば2023年度の第60回学術集会で発表し、その後、機関誌に委員会報告として掲載する予定であることが報告された。

(9)学術・先進医療検討委員会(米田担当理事)

米田担当理事より、以下の点について報告がされ、承認された。

- ・例年、日本外科学会の小児外科領域の「シンポジウム」・「パネルディスカッション」・「ワークショップ」の上級演題を 1 題ずつ小児外科学会から提出していることを受けて、2024 年のテーマについて学術・先進医療検討委員会で検討し、それぞれのテーマを 2 題に絞ったことが報告された。外科学会に候補となるテーマが挙げられていると報告することが承認された。
- ・内田理事より、9 月 12 日の外科学会理事会で組閣することが報告され、田尻前理事長からテーマ等についてはその後に小児外科学会宛に連絡があると思うとの意見が述べられた。
- ・「小児腭腫瘍に関する全国アンケート調査」について、前回の理事会審議で多くの指摘を受けた点を名古屋大学の牧田先生に修正していただき、また、委員会から新たに指摘された点についてもやりとりを重ねて再審議した結果、委員会として承認という結論になったことが報告され、承認された。
- ・第 59 回学術集会における優秀動画を選出し、鹿児島大学小児外科 大西 峻 先生、静岡県立こども病院 野村明芳 先生の動画を学会ホームページの手術動画コーナーで公開することが報告された。選出されたお二人の先生方に、副賞として学会から賞金が授与される予定であることが報告された。
- ・小児外科学会の学会企画演題について委員に意見を募り、各カテゴリー毎に 3 年計画の演題を新しく提案し、学会企画演題案を更新した一覧表を作成したことが報告された。

(10)倫理・医療安全管理委員会(石橋担当理事)

石橋担当理事より、今回特に審議事項・報告事項がない旨述べられた。

(11)データベース委員会(田中担当理事)

田中担当理事より資料に基づき、以下の点について報告がされ、承認された。

- ・獨協医科大学の松寺翔太郎先生から 2021 年度 NCD 小児外科領域研究の計画変更願いの提出があり、データベース委員会で承認されたことが報告され、承認された。
- ・前回の理事会で、2022 年度 NCD 小児外科領域研究に 4 件の申請があり、NCD 側からの今年度は 2 件までという要望を受けて、データベース委員会で点数順に、22-02「新生児消化管穿孔における術式選択がアウトカムに及ぼす影響」、22-03「先天性胆道拡張症に対する腹腔鏡手術新規導入へのハードル-胆道拡張症手術の NCD-P データ解析による腹腔鏡手術導入の指標と導入後の治療成績の推移についての検討-」を推薦することになったこと、また、22-03 には個人情報が含まれていたため、申請者側に修正を依頼することを報告した。修正を反映し、再提出された申請書で改めて、22-02、22-03、次点だった 22-01 をデータベース委員会、研究倫理委員会、利益相反委員会で審議した。その結果、22-02、22-03 で問題ないということになったことが報告され、22-02、22-03 を推薦することが承認された。

(12)小児救急検討委員会(田中担当理事)

田中担当理事より資料に基づき、以下の点について報告があった。

- ・2022 年 9 月 18-19 日の 2022 年度 PALS 受講の応募状況について、4 名の申込があり、その内の 2 名は前日に BLS を受講する予定であることが報告された。
- ・2 年に一度各施設にお願いしている小児救急受け入れ調査について、8 月 31 日現在、201 施設中約 55 施設からしか回答がなかったため、回答メ切を 9 月 9 日まで延長することが報告された。
- ・2022 年 10 月 2 日に Web で開催される 2022 年小児救急連絡協議会に宮城委員長が出席予定であることが報告された。
- ・門田版 2022 年度研究について、小児救急検討委員会から研究課題を出したが、学術・先進医療検討委員会での審議で修正指示があり、また、倫理委員会への提出が必要ということで修正中であったと報告された。9 月 6 日、宮城委員長より、旭川医科大学の倫理委員会で緊急審議し、倫理委員会が通ったとの連絡があり、また、学術・先進医療検討委員会の修正依頼に基づいて、修正案が提出されたことが報告された。

(13)トランジション検討委員会(田中担当理事)

田中担当理事より、資料に基づき、以下の点について報告がされた。

- ・一昨年に行われ、昨年学会誌に掲載したアンケート調査結果について、さらに地域別に検討を行い、アンケート調査結果の続報として論文化する予定であることが報告され

た。学会誌には原著論文として投稿する予定であることが報告された。

- ・トランジションガイドブックについて、PDF にして一般市民に閲覧可能な形で HP に掲載することが報告された。学会誌に掲載した方が引用しやすいので、委員会報告としても掲載することが承認された。
- ・改訂版移行支援サマリーはトランジションガイドブックと併せて HP、学会誌に掲載することが提案され、承認された。

(14)ワークライフバランス検討委員会(浮山担当理事)

浮山担当理事より資料に基づき、以下の点について報告がされた。

- ・2022年10月27日に開催されるワークライフバランス検討委員会主催講演会の会告が提示され、報告された。
- ・「ハラスメント防止宣言」の文案が二通り提出され、「本法人は、職務上の地位や性別に関係なくあらゆるハラスメント行為の防止を推進するため、以下の取り組みを行います。」と記載されている文案を採用することが承認された。

(15)規約委員会(石橋担当理事)

石橋担当理事より、今回特に審議事項・報告事項がない旨述べられた。

(16)研究倫理委員会(石橋担当理事)

石橋担当理事より、今回特に審議事項・報告事項がない旨述べられた。

(17)NCD 連絡委員会(淵本担当理事)

淵本担当理事より資料に基づき、以下の点について報告があった。

- ・令和4年7月28日に開催された第1回日本小児外科学会 NCD 連絡委員会について報告された。
- ・小児外科領域 National Clinical Database データ検証 (NCD-P Audit) を4施設に依頼中であることが報告された。
- ・来年の日本外科学会のパネルディスカッションに、NCD データを活用した新生児外科全国集計・医療品質評価・診療ガイドラインについてまとめたものを抄録として提出することが報告され、承認された。

(18)ガイドライン委員会(米田担当理事)

米田担当理事より、資料に基づき報告された。

- ・小児外科診療に関連するガイドラインの審査の改訂作業について報告された。
- ・「腸回転異常症診療ガイドライン」はすでに配布しており、使用后アンケート調査を行う予定であることが報告された。

- ・「小児胃軸捻転症診療ガイドライン」は、現在、2次スクリーニングを行っており、秋にはレポートが完成予定であることが報告された。
- ・学会 HP に掲載されているガイドライン集について報告された。
- ・日本外科学会「外科学用語集 Web 版」の『胃軸捻 (症)』、『イレウス』について改変要望申請中であることが報告された。
- ・日本外科学会学術集会に「希少小児外科疾患診療ガイドラインの効能・限界とその先について」というタイトルで応募することが報告され、承認された。
- ・腹部救急医学会からの「急性腹症診療ガイドライン」改訂への御協力をお願いについて、奥山理事長の名前で小児救急医学会に依頼するよう回答することが承認された。

(19)利益相反委員会(奥山理事長)

奥山理事長より、今回特に審議事項・報告事項がない旨述べられた。

(20)医薬品・医療機器検討委員会(内田担当理事)

内田担当理事より、資料に基づき、以下の点について報告された。

- ・製薬企業を通じて、短腸症候群に対する GLP-2 アナログ製剤の 0.95mg 製剤（1歳未満の乳児、体重 10kg 未満の小児、体重 20kg 未満で中等度以上の腎機能障害を合併する小児短腸症候群患者が適応）が承認申請中で、以前に 3.8mg 製剤の承認申請の際に、この製剤が在宅自己注射指導管理の対象となるよう学会から要望した経緯から、0.95mg 製剤についてもこの要望の対象でよいか（同様の取り扱いを希望するか）という問い合わせがあったことが報告され、同様の取り扱いを希望すると回答することが承認された。
- ・大建中湯のヒルシュスプルング病、ヒルシュスプルング病類縁疾患を適応とする要望について、内田担当理事、和田委員長が 8 月 15 日に企業（ツムラ）担当者とウェブ面談を行い、経緯や事情を確認したことが報告された。治験経験のない企業なので、非臨床治験も含めたフルパッケージの治験には対応できないが、当局や学会からの要望があればできる限り対応するとのことで、今後、当局から学会としての見解を求められた際には企業の意向を尊重しつつ検討、対応する方針としたことが報告された。
- ・丸石製薬からのスキサメトニウム注射薬の安定供給に関する懸念事案に対し、担当者より事情や対応の方向性を説明したいとの意向あり、近日中にウェブ面談を調整する予定であることが報告された。
- ・Omegaven の要望、医師主導治験に関連して、新生児成育医学会より魚油を含む静注用脂肪乳剤 SMOF lipid の承認、保険適応に対する要望が高まっており、日本小児科学会薬事委員会と厚労省とのウェブ面談に関連する委員とともに参加したことが報告された。SMOF は成人も含めて使うため、Omegaven のような単独の臨床試験は難しいということで今後も調整していくことが報告された。

(21)総合調整委員会(小野委員長)

小野委員長より、資料に基づき、以下の点について報告がされた。

- ・日本外科学会が自由な意見交換の場としてアンダー40 ワーキンググループ（以下 U40WG）を立ち上げたことに倣い、小児外科学会でも総合調整委員会の下部組織として U40WG またはアンダー45 ワーキンググループ（以下 U45WG）を立ち上げて中堅の小児外科医の自由な意見交換を行う場を作ることが報告され、U45WG を立ち上げることが承認された。
- ・U45 WG メンバーは小児外科専門医を対象に公募し、現段階では人数制限はしないこと、WG の意見は総合調整委員会で揉んで、理事会に提示していくようにすることが報告された。
- ・2023 年の小児外科学会で U45WG によるパネルディスカッションを企画する予定であることが報告された。
- ・小野副理事長が U45 WG に参加することが報告された。
- ・新専門医制度については金沢医科大学の田村亮先生から伺った英国の小児外科医の働き方改革や研修システム等を元に、継続審議していく予定であることが報告された。
- ・英語 HP を作成することが決定し、内容を充実させるために検討していることが報告された。
- ・継続審議されてきた女性柁理事について、最終的な日時等の確認を行っていることが報告された。

(22)日本外科学会理事会(田尻前理事長)

田尻前理事長より、専門医制度や、学術集会のあり方などについて議論されたことが報告された。

(23)四者協関連(奥山理事長)

奥山理事長より、アセトアミノフェンの要望を提出したことが報告された。

(24)選挙管理委員会（照井第 26 回評議員選挙管理委員会委員長）

照井委員長より、評議員選挙の選挙管理委員会を立ち上げ、スケジュールを組んでいることが報告された。

7)ラオス小児外科プロジェクトへの手術動画提供について（奥山理事長）

名誉会員の窪田昭男先生から、今年から始まるラオス保健省公認の小児外科専門医制度で使用する教育ビデオとして、学会 HP に掲載されている臓器・疾患別の 4.下部消化管の直腸肛門奇形の(1)木村修先生、(2)広部誠一先生の 2 本の動画データの提供依頼があったこ

とが報告された。学術・先進医療検討委員会担当の米田理事から、動画の著作権については承諾書に、学会に移譲するか、個人と学会で有するか、個人のみで有するか、チェックボックスを設けて確認しているので、該当動画の承諾書でどのようになっているか確認中であることが報告された。事務局より、木村修先生から9月6日付で退会の連絡があったことが報告され、広部誠一先生に、動画提供の可否について確認することが承認された。

8) 新生児マスキング検討小委員会の委員推薦について

奥山理事長より、四者協からの依頼により、田口智章先生から若手推薦依頼があったが、現任の松藤先生、仁尾先生が委員会活動に意欲的に取り組んでいるため継続していただくことになったことが報告された。

9) 第27回 公益財団法人がんの子どもを守る会 公開シンポジウム後援依頼について

奥山理事長より、例年依頼され後援していることが報告され、今年も後援することが承認された。

4.報告事項

1)理事長報告(奥山理事長)

(1) 日本医師会女性医師支援センターからの寄贈本「医師の多様な働き方を支えるハンドブック」を受領した。

(2) 日本がん治療認定医機構からの寄贈本「がん治療認定医教育セミナーテキスト第16版」を受領した。

(3) 内田理事から、ロボット支援下手術プロクターについて以下の説明があった。

胆道拡張症のプロクターの資格であるロボット支援下手術プロクターについて、小児外科学会でもプロクターの認定をしなくてはならないことになり、保険診療委員会に相談したが対応が難しいということで、小児外科学会の理事長から日本小児内視鏡・手術手技研究会に依頼して研究会の方で委員会を立ち上げ、提出書類があっているかどうかを確認し、小児外科学会理事長に審査結果を報告するという形になったことが報告された。審査料振込先が明記されれば審査は可能なので、事務局で至急対応してほしいと述べられた。

2)次回定例理事会日程の確認(奥山理事長)

次回定例理事会は令和4年10月26日(水)10:00~14:00 岡山コンベンションセンターにて開催することが確認された。

理事長

理事

理事
